

# いのちの海と空と大地



原発のない世界を求めて ニュースレター

発行： 日本聖公会「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト

## 1. 『原発のない世界を求める国際協議会』開催

日本聖公会原発問題プロジェクトは、掲題の国際協議会実行委員会を組織し、2019年5月28日（火）～31日（金）、仙台市近郊の茂庭荘にて開催しました。基調講演には、ドイツ・ミュンヘン工科大学教授ミランダ・A・シュラースさんをお招きしました。他に英国、米国、韓国、台湾、フィリピンの聖公会代表、および、日本聖公会11教区より、主教、司祭、信徒の参加のもと、総勢68名の多彩な参加者が4日間の熱心な学びと討議を行い、最後に声明を採択して閉会しました。

日本聖公会は、2012年5月23日第59（定期）総会にて「原発のない世界を求めて－原子力発電に対する日本聖公会の立場－」という議案を決議し、原発に依存するエネルギー政策を転換しようという方向性を明確にしています。

この協議会は、そんな私たちの具体的な活動の一環として開催されました。ここでは改めてこの協議会開催の意義を考えてみましょう。

### （1）なぜ「原発のない世界」を求めるのか

原発はウランの核分裂の際に発生する膨大な熱エネルギーを利用して発電するものですが、燃料とされるウランは放射能を発生する鉱物です。原発は、燃料となるウラン鉱石の採掘から、原子炉の中で燃やされ、使用済み核燃料として処分されるまでの全ての過程で扱う

人を被曝の危険にさらすものです。また、電気を利用する人と、原発に関わる人との間に矛盾や分断を引き起こしています。さらに、使用済核燃料の処分には、今後、100 万年もの長期間にわたる安全管理が必要となるのです。

## (2) なぜ国際協議会を開催したのか

原発は事故が起ると他のどんな発電所より過酷なものとなり、その影響は地域や国境を越えて広がり、長期間全ての「いのち」を傷つけます。また、原発の運転によって生まれるプルトニウムは核兵器に転用が可能なため、それを保有することにより世界に不信と不安をもたらします。世界の原発保有国が協力して原発に依存する政策を転換しなければなりません。

## (3) 声明はどんな内容ですか

参加者の総意としての声明は、「いのちの尊さを確認し、そのいのちを生きるために～原発のない世界を求めて～」と謳い、「原発と原爆はコインの裏表」と言われる原子力発電からの解放のための旅、「フクシマの出来事の証言者」であり続ける事、そのための8項目の提言を纏めています。

声明は各教会の皆様が届けられます。また、次号では、提言の内容について取り上げ、皆様が「原発のない世界」の実現に向けて具体的に取り組むための話し合いのお役に立てて頂ければ幸いです。



原発のない世界を求める国際協議会参加者